第３類

小学校・国語教科書「ことば」教材の研究

―第１学年・第２学年を中心にして―

三木麻子
MIKI Asako

国語科教育法の授業で、初めて指導案を作成し模擬授業を経験する学生が、扱いやすい教材とはどのようなものだろうか。今年度用いた「ことば」の教材について、兵庫県下で使用されている教科書は、学習指導要領の実施に向けてどのような内容を展開しているのか、各社の教科書が提供している内容を比較、検討し、児童にとっても、教員にとってもよりよい教材を求めた教材研究の結果を報告する。

キーワード：国語、教科書、教材、国語の特質に関する事項、「ことば」、指導計画、

1. はじめに

本学の学生が自らの国語力について、改めて考えることになるのは、保育実習や幼稚園・小学校での教育実習において、実習園・校に事前の打ち合わせをお願いしたり、日々の記録などを書いたりする時であろう。保育者・教育者としての視点や用いるべき専門用語に注意喚起する以前に、社会人としての言葉遣いや、書き言葉に慣れていない学生もいて、実習の場で苦労する場合が多い。

敬語がわからない、話し言葉と書き言葉の区別が難しいという学生もいるなかで、改めて小学校からの学びを振り返ることは、どう捉えられるだろうか。例えば算数などの場合は、小学校からの躓きが、中学校、高等学校まで尾を引くこともあると思われるし、英語の場合も中学校の初歩からを学び直すということも必要な場合があるとしても異論は少ないだろう。国語の場合だけは、日常生活のなかでコミュニケーションツールとして成立してしまうだけに、学びの初めからの振り返りはなかなか行われることがないが、小学校学習指導要領には、国語の力を伸ばす方法が、あらゆる視点から組込まれている。

保育者･教育者を目指す学生が､国語の指導法を学ぶことは自らの国語力がどのように培われてきたかを省みるよい機会になるだろう。そこから、次世代の子どもたちに「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を…略…育成することを目指」してゆく〈注１〉ことになる。

2. 国語教科書

「国語科教育法」を学ぶにあたって、学生にとって、国語教材の実体を知ることがまず重要である。学習指導要領に基づき作成される教科書が、どのような教材を準備して目標を達成しようとしているのか、その理解が必要であると思われる。

2017年度後期の「国語科教育法」の授業では、小学校２年生用の国語教科書（こくご二下　赤とんぼ・光村図書）をテキストとした。神戸市の採

用教科書が光村図書であるためである〈注２〉。

また、本学の学生が就職先に選ぶ可能性が高い、兵庫県下でも、光村図書版の採用率は高い（表１）参照。

（表1）平成29年度小・中学校（国語）採択教科書

平成 29 年度 兵庫県 小学校・中学校 教科書					
小学校				採択地区	中学校
国語	社会	算数	理科		国語
光村	日文	東書	啓林館	【神戸地区】神戸市	三省堂（光村）
光村	日文	東書	啓林館	【尼崎地区】尼崎市	三省堂（東書）
東書	日文	東書	啓林館	【西宮地区】西宮市	光村（三省堂）
光村	教出	啓林館	啓林館	【芦屋地区】芦屋市	光村
光村	日文	啓林館	啓林館	【伊丹地区】伊丹市	東書
光村	日文	啓林館	教出	【宝塚地区】宝塚市	三省堂（東書）
光村	東書	啓林館	東書	【川西地区】川西市・川辺郡	三省堂
東書	日文	啓林館	啓林館	【三田地区】三田市	三省堂（東書）
東書	東書	啓林館	啓林館	【丹波地区】篠山市・丹波市	東書
光村	教出	啓林館	啓林館	【明石地区】明石市	教出
東書	東書	啓林館	啓林館	【加印地区】加古川市・高砂市・加古郡	光村
光村	東書	啓林館	啓林館	【北播地区】西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可郡	光村
東書	日文	啓林館	啓林館	【姫路地区】姫路市	東書
東書	日文	啓林館	東書	【神崎地区】神崎郡	東書
光村	日文	啓林館	啓林館	【西播地区】相生市・たつの市・赤穂市・宍粟市・揖保郡・赤穂郡・佐用郡	光村
光村	東書	啓林館	啓林館	【但馬地区】豊岡市・養父市・朝来市・美方郡	光村
光村	日文	東書	啓林館	【淡路地区】洲本市・南あわじ市・淡路市	光村
光村	東書	啓林館	啓林館	【明石市】国立　神戸大学附属小学校	
				【神戸市灘区】国立　神戸大学附属中学校	三省堂
光村	日文	啓林館	啓林館	【加東市】国立　兵庫教育大学附属小・中学校	東書
				【芦屋市】県立　芦屋国際中等教育学校	三省堂（光村）
				【赤穂郡】県立　兵庫県立大学附属中学校	三省堂
光村	日文	啓林館		【神戸市　東灘区】私立　甲南小学校	
				【神戸市　東灘区】私立　甲南女子中学校	学図
				【神戸市　東灘区】私立　灘中学校	学図（三省堂）
				【神戸市　灘区】私立　松蔭中学校	東書
光村	東書	東書	東書	【神戸市　灘区】私立　神戸海星女子学院小・中学校	学図（光村）
				【神戸市　灘区】私立六校学院中学校（平成 28 年に校名変更）	学図

小学校（国語・社会・算数・理科）				採択地区	中学校（国語）
				【神戸市　灘区】私立　親和中学校	学図
光村	日文	啓林館	啓林館	【神戸市　灘区】私立　高羽六甲アイランド小学校	
				【神戸市　須磨区】私立　啓明学院中学校	光村（三省堂）
				【神戸市　須磨区】私立　滝川中学校	光村（三省堂）
光村	日文	東書	啓林館	【神戸市　須磨区】私立　須磨浦小学校	
				【神戸市　須磨区】私立　神戸国際中学校	光村
				【神戸市　須磨区】私立　須磨学園中学校	東書
光村	東書	啓林館	啓林館	【神戸市　垂水区】私立　愛徳学園小・中学校	光村
				【神戸市　中央区】私立　神戸山手女子中学校	光村
				【神戸市　中央区】私立　神戸龍谷中学校	三省堂（東書）
				【神戸市　西区】私立　滝川第二中学校	光村（東書）
				【尼崎市】私立　園田学園中学校	東書（学図）
光村	日文	学図	学図	【尼崎市】私立　百合学院小・中学校	光村（東書）
光村	日文	啓林館	啓林館	【尼崎市】私立　甲子園学院小・中学校	教出
				【西宮市】私立　武庫川女子大学附属中学校	三省堂
				【西宮市】私立　夙川学院中学校	東書（三省堂）
				【西宮市】私立　報徳学園中学校	教出
				【西宮市】私立神戸女学院中学校	光村
				【西宮市】私立　関西学院中学校	学図
				【西宮市】私立　甲陽学院中学校	学図
				【西宮市】私立　仁川学院小・中学校	三省堂
				【芦屋市】私立　芦屋学園中学校	学図
				【芦屋市】私立　甲南中学校	東書
光村	東書	東書	東書	【宝塚市】私立　関西学院初等部	
光村	東書	啓林館	東書	【宝塚市】私立　小林聖心女子学院小・中学校	光村（東書）
光村	教出	啓林館	啓林館	【宝塚市】私立　雲雀丘学園小・中学校	光村（東書）
				【三田市】私立　三田学園中学校	東書（学図）
				【高砂市】私立　白陵中学校	東書
				【姫路市】私立　賢明女子学院中学校	三省堂
				【姫路市】私立　淳心学院中学校	三省堂（学図）
				【姫路市】私立　東洋大附属中学校（平成 26 年開校）	光村
				【豊岡市】私立　近畿大学附属豊岡中学校	光村
				【朝来市】私立　生野学園中学校	三省堂
				【洲本市】私立　柳学園中学校	東書

＊（　）内は旧採択で、採用教科書会社が適宜変更されていることが解る。
また、東書は東京書籍、教出は教育出版、日文は 日本文教出版、学図は学校図書株式会社のこと。

（表１）は平成29年度の兵庫県下の小学校・中学校採択教科書の一覧表より引用し示してたものである〈注３〉。同表が小中学校教科書一覧であるので、採択地区の右側にある中学校国語までを載せた。小学校教科書は平成27年度～平成31年度・中学校は平成28年度～平成32年度まで改訂されないし、採択状況は平成30年度版も、大きな差はない〈注４〉。

ちなみに、この教科書採択のシェアを全国規模でみたのが（表２、３）である〈注５〉。全国公立（国立・県立を除く）学校に限ったが、光村図書の優位は変わらない。（表１の）結果により、光村図書を中心に、東京書籍と中学では使用されている三省堂版の教科書を必要に応じて参照することとする。また、新学習指導要領が全面実施される平成32年度までは、現行学習指導要領の下に検定された教科書が使用されるので、向後は学習指導要領についても現行〈注６〉を主に述べていく。

（表２）国語教科書全国採択状況

都道府県	地区数	国語・採択教科書会社					都道府県	地区数	国語・採択教科書会社				
		光村図書	東京書籍	教育出版	学校図書	三省堂			光村図書	東京書籍	教育出版	学校図書	三省堂
北海道	23	7		16			三重	10	9	1			
青森	8	4		3	1		滋賀	6	5	1			
岩手	9	7	2				京都	7	5	2			
宮城	8		8				大阪	45	27	15	2	1	
秋田	9	9					兵庫	17	11	6			
山形	9	6		3			奈良	18	12	6			
福島	10	8	2				和歌山	8	8				
茨城	11	3	8				鳥取	3		3			
栃木	13	10	3				島根	5	1	4			
群馬	9	6		2	1		岡山	8	7	1			
埼玉	23	16	1	6			広島	19	9	10			
千葉	15	3		12			山口	15	10	5			
東京 23 区	23	15	2	4		2	徳島	11	7	4			
東京 23 区以外	31	28	1	2			香川	8	1	7			
神奈川	28	23	3		1	1	愛媛	16	11		5		
新潟	12	7	2		3		高知	8	1	7			
富山	8	7	1				福岡	16	12	4			
石川	9	9					佐賀	5	3	2			
福井	5	5					長崎	12	6	3	3		
山梨	6	6					熊本	11	8	3			
長野	12	12					大分	11	6	2	3		
岐阜	7	7					宮崎	6	1	5			
静岡	11	6		2	3		鹿児島	10	10				
愛知	9	4	4	1			沖縄	7	3	1	3		

（表３）教科書採択数

都道府県	地区数	国語・採択教科書会社 採択数				
		光村図書	東京書籍	教育出版	学校図書	三省堂
計	590	381	129	67	10	3

3. 国語の特質に関する事項

教科教育法の授業では、実際に模擬授業をするにあたってどの教材が適切かを考えるために、教科書目次を確認するところから始めた。

2017年度前期の「国語」の授業で、６年生用の教科書を用いて、教材が「話す・聞く」、「読む」、「書く」の三領域のうち、どの知識・資質を伸ばすものか、教科書目次にも、教材のめあてが解るように記す工夫がされていたことを学生たちは学んだのである。

また、この三領域の指導を通して指導する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、学習指導要領によれば、

（１）ア　伝統的な言語文化に関する事項
　　イ　言葉の特徴やきまりに関する事項
　　ウ　文字に関する事項
（２）書写

に分かれていて、２年生の教科書目次では、（１）イの内容は光村図書版・三省堂版には「ことば（言葉）」と注記され、東京書籍版では、目次の教材のテーマに色掛けされて他の教材と区別されている。

今年度は、比較的短い教科書２頁程度の量である（１）イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」の教材を模擬授業の題材とすることとした。前年の「読む」教材では、前稿〈注７〉で報告したように、学生が教材全体を通しての指導計画を立てることを困難に感じる場合があり、授業に数時間を要する物語や説明文を選んだ場合でも、学生は「本時」の設定を導入の１時間目にとる場合が多かった。全体の量は少なくても指導の流れを掴むためには、全体計画を立てやすい教材が、学生にとって取り組みやすいと考えたためである。

各学年の目標及び内容（第１学年及び第２学年）は、学習指導要領に以下のように書かれている。

（１）

ア　伝統的な言語文化に関する事項

(ｱ) 略

イ　言葉の特徴やきまりに関する事項

(ｱ) 言葉には、物事の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(ｲ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

(ｳ) 言葉には、語句による意味のまとまりがあることに気付くこと。

(ｴ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

(ｵ) 句読点の打ち方や、かぎ（「　」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

(ｶ) 文の中における主語と述語の関係に注意すること。

(ｷ) 敬体で書かれた文章に慣れること。

ウ　文字に関する事項

(ｱ) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

(ｲ) 第１学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当さえている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

とあり、(ｳ)は第２学年に配当された漢字の読み、書きについてであるので、以下、（２）書写まで省

略〈注８〉。
（※下線部は稿者による。後述する２年生のテキストに出てくる重要な個所である。）
この学習指導要領の〔国語の特質に関する事項〕がどのように教科書に反映されているか見てみよう。

４．こくご　一　二

教科書（光村図書）のことば教材（１年上は「ことば」教材と推測されるもの）をあげる〈（　）内の注やAの記号は稿者による）。第１学年上巻では、「もくじ」は前方になく、教材は区切りもめだたず、なだらかに始まっている。

こくご　一上　かざぐるま

・うたに　あわせて　あいうえお
・ことばを　つくろう
・かきとかぎ（**清音と濁音**）
・ぶんをつくろう（**イ（ｶ）主語と述語**）A
・ねことねっこ（**イ（ｴ）促音**）
・わけをはなそう（**イ（ｱ）経験を伝える**）
・おばさんとおばあさん（**イ（ｴ）長音・「を」**）
・おもちゃとおもちゃ（**イ（ｴ）拗音・「へ」**）
・あいうえおで　あそぼう
（**イ（ｳ）意味のまとまり**）
・㋱㋮㋲を　つかおう（**イ（エ）**）
また、（**イ（ｱ）経験を伝える**）教材であり、「話す・聞く」教材でもあると思われるのが、
・おもいだして　はなそう
・おおきく　なった
・たからものを　おしえよう
・すきな　こと、なあに
・こんな　ことを　したよ
などである。これらを経て、教材の冒頭に「はなす・きく」のマークが付けられた「なつやすみのことを　はなそう」が載せられる（100頁）。
「ことば」教材も102頁から「ことば」マークが付けられた「ひらがな　あつまれ」が登場する。「ことば」と記された教材を以下にあげる。
・ひらがな　あつまれ
（**イ（ｳ）言葉つなぎ・言葉探し**）B
・かたかなを　みつけよう（**ウ（ｱ）**）C
・かずと　かんじ（**ウ（ｲ）**）D（読み）
（ふろく）
・よこがきの　かきかた（**イ（ｵ）**）

こくご　一下　ともだち

こくご下巻では、初めに目次が登場し、「はなす・きく」「よむ」「かく」が付されるが、「ことば」に関しては、目次にも記され、単元の初めに「ことば」と書かれたり、「ことば」マークが付けられたりもする。以下にあげる。
・ことば（**イ（ｵ）かぎ「　」を使う**）
・まちがいを　なおそう（**イ（ｴ）「は」「へ」「を」**）
・かん字の　はなし（**ウ（ｲ）**）（**漢字の成り立ち　象形文字と指事文字**）D-１
・ことばを　見つけよう
（**イ（ｳ）意味のまとまり**）B
・かたかなを　かこう（**イ（ｴ）・ウ（ｱ）**）C
・日づけと　よう日（**ウ（ｲ）（読み）**）D
・ことばって　おもしろいな「ものの　名まえ」
（**イ（ｳ）**）B
・かたかなの　かたち（**ウ（ｱ）**）C
・ことばを　たのしもう「ぞうさんのぼうし」・「はやくち　ことば」
・にて　いる　かん字（**ウ（ｲ）**）D-２（形）
これだけの「ことば」の学習をして進級した第２学年「ことば」教材をみよう。

こくご　二上　たんぽぽ

・同じ　ぶぶんを　もつ　かん字
（**ウ（ｲ）**）D-２
・うれしい　ことば（**イ（ｱ）**）
・ことばあそびをしよう（**イ（ｳ）**）

こくご　二下　赤とんぼ

・主語と述語（**イ（ｶ）**）A
・かん字の読み方（**ウ（ｲ）**）D
・かたかなで書くことば　C
・にたいみのことば、はんたいのいみのことば
（**イ（ｳ）**）B
・なかまのことばとかん字（**イ（ｳ）**）B
・ことばを楽しもう

単元名の後ろに記したカタカナは学習指導要領の条記号である。該当する教材と思われるものに当該のカナを付した。また、カタカナの後ろに付したアルファベットは、関連教材であると思われる仲間を示す記号である。

こうして、カタカナやアルファベットとともに「ことば」教材を見たとき、第１学年では、主に表記に関することを学ぶが、漢字・片仮名・平仮名という表記文字や符号の種類を学ぶだけでなく、それぞれの項目が上級学年への基礎となっていることが解る。

光村図書の教師用の「学習指導書」にも「単元の位置づけ」や「児童の学習経験」として、その教材間の関連が指摘されていて、経験のない学生には指導のヒントとなるが、本来、「ことば」教材の積み上げと流れを意識し、自ら整理しておきべきものであろう。

今、仮にA・B・C・Dを付した教材内容に目を向けて、教科書での「ことば」教材の扱いを掘り下げてみよう。

5. 教材のつながり・つみあげ

５－１

A 文の中における主語（しゅ）と述語（じゅつ）の関係を知る教材

光村図書版では、１年から２年へのつながりがある。

・ぶんを　つくろう（１年上）

・主語と述語（２年下）

１年教科書では、

きつねが　　はしる　。

さるが　　「　　」。

ぶたが　　「　　」。

とあって、四角括弧の中に動詞を補う。この形を習得していれば、２年教科書で、

主語　だれが（は）

　　何が（は）

述語　どうする

　　どんなだ

　　なんだ

を「主語」「述語」という用語とともに学び、「述語」になる語には、動詞に加えて、形容詞・形容動詞、名詞があることを体得できる。

光村図書版では、その前の単元の「お手紙」の文を使って主語と述語を探す、東京書籍版では短い例文を用いて、主語と述語を探す、という形で、主語と述語を学ぶ。「お手紙」という親しんだ文章ではあるが、修飾語の入る文から主語・述語を探すのは少し難度が高い。東京書籍版は１年で光村図書と同じように「ぶんをつくろう」という単元名で、絵を見て「～」が「～。」という文を作る経験をさせているので、短い例文に修飾語が入ったところからの主語・述語探しは理解しやすいだろう。

ところが、１年でそのような教材がない三省堂版では、２年生の「しゅ語とじゅつ語」単元の中で「えを見て、文を作りましょう」という内容を含めて、「なにが・なにはーどうする」以下の「しゅ語」と「じゅつ語」のかたちを学ばせるが、コンパクトに、修飾語を含む例文や「が」「は」以外に「も」のつく語も主語になることを盛り込んでいる。繰り返しの積み上げではないが、ここはその必要が無いともいえる。

＊＊

ここで、三省堂版教科書について触れておきたい。三省堂版の教科書「しょうがくせいのこくご　一年上下」で、上巻では目次が最後に載ることは他２社と同様であるが、上巻後ろに載せられた目次は、「ことば」教材が青字で印刷されている。その単元名も、

・あいうえおで　はじまる　ことば

・ことば　みつけ

・゛や゜が　つく　ことば（**濁点・半濁点**）

・ちいさい　っが　つく　ことば

・ひともじ　かえて

・ひらがなの　ひょう

・のばす　おんが　ある　ことば

・ちいさい　ゃゅょが　つく　ことば

・わたし、まるこ（**イ（ウ）**）B

・は　へ　を
・かんじの　はじまり
・かたかな
・かぞえうた

と学習指導要領の条文に即した形で、教員の側からすれば、全体を見通すときに単元の目標が非常に解りやすい。一見、単元目標がわからない「わたし、まるこ」はちびまる子ちゃんの家族が登場し、「わたし、まるこ」から始まって、家族関係を「いもうと」「おかあさん」「むすめ」……と紹介していく、楽しめる語彙の教材であった。

また、２年生の下巻から、はじめに目次が置かれているのも他２社と同様であるが、「はなす・きく」「よむ」「かく」と同様に「ことば」や「しらべる」が明記されていて、児童にも何の教材であるかが明確である。

５－２

B　言葉・語彙の教材

「４．こくご　一　二」では、光村図書版の「ことば」教材が、学習指導要領のどの条に対応しているかを示していったが、今ひとつ解りにくかったのが、

イ（ｳ） 言葉には、語句による意味のまとまりがあること に気付くこと。

であった。これは、〔第３学年及び第４学年〕では、

イ（ｵ） 表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

となり、さらに、新・指導要領では、記述される場所が漢字の条の後ろに下がって、

オ　身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

と変更されている。言葉をいろいろに分類できることを知って、語彙を増やすことが目的であることが分かりやすくなった。これも三省堂版は、現行・指導要領のもと、１年の下巻で、

・いっしゅうかん（**ウ（ｲ）**）**D（漢字の読み）**
・なかまのことば①～③（**イ（ｳ）**）**B（語彙）**
・かたちが　にて　いる　かん字
（**ウ（ｲ）**）**D－２（漢字の形）**

と、（イ（ｳ））を「なかまのことば」という単元名で記し、①では、光村図書版では、２年下に載る「なかまのことばとかん字」の内容を、「なかまの　ことばを　あつめましょう」として「いろのことば」「からだのことば」「天気のことば」「がっきの　ことば」「お金の　ことば」を紹介している。②では、「学校のことば」「あそびのことば」、③では、反対の言葉や仲間の言葉である「上下左右」「木・林・森」「上がる・下がる・上る・下りる」「起きる・ねる・立つ・すわる」「大きい・小さい・おもい・かるい」「入り口から　入る、出口から　出る」「男の子・女の子・おとな・子ども」「村・町・し」を紹介し、さまざまな語句に触れさせている。これは、２年生の教科書にも載せられ、動物の中に、「虫・とり・さかな・にんげん」が含まれ、さらに「虫」の下に「せみ・とんぼ・ちょう」などが入る複雑な上位概念と下位概念が図で示されている。三省堂版は、仲間の言葉の概念が徐徐に深められていく、よい積み上げの教材配置になっている。

光村図書版が「なかまのことばとかん字」という単元名で「なかまのことばとかん字を、いっしょにおぼえましょう」と「家の人」の中に「親－子、父・兄・弟・わたし・母・姉・妹」を分類して、漢字学習と無理に併せたようにみえる形よりすっきりとしている。

光村図書版の場合、「お金（一円・十円・百円・千円・一万円）」「一日（朝・昼・夜、午前・正午・午後）」「教科（国語・算数・生活・音楽・図工・体育）」「色（赤・青・黄・白・黒・茶）」「天気（晴れ・雨・くもり・雪）」は、既習漢字で書けるが、さらなる発展問題で出される「どうぶつの名前」「うごきをあらわすことば」などは、２年生ではなかなか漢字では書けないものが多い。

本単元を取り上げた模擬授業では、教科書を初めは用いない、という計画が多かったので、「色」の仲間でさえ、カタカナ言葉（ピンク・オレンジ

など）の色が続出した。

因みに、東京書籍版も、「なかまに　なる　ことばを　あつめよう」として「方角」「きせつ」「家族」「時」が上位語として提示されている。「東西南北」「春夏秋冬」など四字熟語になる下位語も含まれるが、できるだけ漢字で書くという学習指導要領（ウ　文字に関する事項（ｲ）漢字の項）の概念は出されていない。

５－３

C　文字に関する事項　片仮名

光村図書版では、１年上巻で、「かたかなを　みつけよう」と、かたかなのことば探しをさせる。表記にも気付かせているので、長音・促音・拗音表記も練習させる。また、下巻でも「かたかなをかこう」があり、片仮名の長音・拗音・促音表記を学ばせ、「かたかなの　かたち」で平仮名と片仮名、または片仮名同士似ている形の字に注意喚起している。

そして、２年下巻で「かたかなで書くことば」が再度取り上げられるが、ここでは、片仮名を使うルールとして、「どうぶつのなき声」「いろいろなものの音」「外国から来たことば」「外国の、国の名前や　土地の名前、人の名前」があることを学ぶ。さらに、かたかな言葉をたくさん図示して「絵の中のことばを　つかって、　かたかなで書くことばが　入った文をつくる」という深化が示されている。片仮名で書く言葉を４度に渡って繰り返して教材化している。

東京書籍版では、１年下巻で「かたかなを　かこう」（長音・拗音・促音）、２年上巻で「かたかなで　書く　ことば」（片仮名言葉の分類）の２度で、三省堂版の１年上巻と２年の初めの２度と同じであるので、光村図書版の丁寧さが解る。特に形を間違いやすい文字への注意喚起は、東京書籍版では「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」しか出されていないので、高学年になっても形が似てしまう文字についての光村図書版の指摘が的確である。

５－４

D　漢字学習

漢字については、光村図書版の漢字教材は、Ｄ、Ｄ－１、Ｄ－２に分かれた。ひとつは、漢字の音訓理解に繋げる、同じ漢字に数種類の読みがあることを知る教材（Ｄ読み）と、また、Ｄ－１とした、漢字の成り立ちである。

Ｄの漢字の読みは、光村図書版では、１年次に「かずと　かんじ」という単元名で、一から十に「ひとつ」のように「つ」を付けるときと、「一本」や「一匹」のように「本」や「ひき」を付けるときで、数の読み方が異なることに気付かせている。東京書籍版では「よう日と　日づけを　おぼえよう」で、曜日の読み方と、日付の特別な読みを紹介し、三省堂版でも１年の「かぞえうた」では、数の読み方と日付の読み方、「つ」が付くときの読み方を紹介し、楽しませる工夫がある。

それが、光村図書版の２年生になると、再度「かん字の読み方」が登場し、「わたしのおにいさんは、九月九日の日曜日に、九さいになりました。」という文で１年次の学習を振り返り、「上」「下」のたくさんの読みを学んでいく。ここで「おくりがなは、かん字の読み方を　はっきりさせるはたらきがあります。かん字を正しく読むためには、おくりがなに気をつけることが　大切です。」と書いているのだが、模擬授業でこの教材を扱った学生はここまで注意を払えている者が少なかった。

東京書籍版は、２年下で、漢字の「読み」ではなく、「おくりがなに　気をつけよう」という単元を設けている。内容的には、「下」には「げる」「がる」「る」「ろす」「りる」の送り仮名が付き、この時の「下」の読みや意味が異なってくることに注意喚起している。同じ漢字に異なる送り仮名を付ける問題を出すことで、「おくりがなは、かん字の読み方や　いみを　はっきりさせるはたらきをして　います」点を理解しやすい教材である。

次に「漢字の成り立ち」は、１年下巻で登場し、目に見える物の形からできたという象形文字と目に見えない事を記号を使って表したという指示文字の紹介をする。これは５年で出てくる「漢字の成り立ち」の四種の成立による文字分類（象形・

指示・会意・形声）のうち、二種を先に理解させているものである。３年で「へんとつくり」を学ぶ前に、偏と旁のない文字を学ばせている。

さらに、もう一つは、Ｄ－２とした漢字の形である。１年生で「にて　いる　かん字」（貝と見、人と入、右と石、早と草、学と字、右と左、土と上）など、全体の形が似ていたり、部分が一致する漢字があることを知り、書き誤りに注意させる。

２年上巻ではもう一度「同じ　ぶぶんを　もつ　かん字」を１年の「にて　いる　かん字」の発展として学ばせている。それは光村図書「学習指導書」によれば、〈三年「へんとつくり」、四年「漢字の組み立て」などにつなが〉り、〈漢字を形成する部分に注目する教材ではあるが、この段階では部首にとらわれず、同じ形の部分という目で捉えるように〉するというものである。

１年での学習を思い出しやすいように「同じ　ぶぶんを　もつ　かん字」は「木」「林」「森」「村」「本」を大きく扱っているが、練習の問題には「学」と「字」を再登場させて振り返りとしている。第１学年、及び第２学年では、同じ「かたち」を探す練習に徹するのである。

これは、部首にとらわれずに部分に着目するという発想で作られた漢字学習ゲーム〈注９〉が、小学生から用いられること、その方がより効果が上がるであろうことを示唆するものであろう。

光村書籍版教科書でも、２年上巻の「カンジーはかせの大はつめい」で、部品を合体させて漢字をつくるクイズや、二つの漢字で言葉（熟語）をつくるクイズも紹介している。

中学年になれば、学習指導要領に「漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと」が入り、３年の教科書には、漢字に関して、「漢字の音と訓」「漢字の意味（同音異義語）」「へんとつくり」が載る。

第５学年では、「漢字の成り立ち」「漢字の読み方と使い方（音訓）」、「同じ読み方の漢字（あつい、さす、おう、はかるなどの同音異義語）」を学ぶ。

さらに、第６学年の「漢字の形と音・意味」は、形声文字の「音を表す部分」「意味を表す部分」があるという５年次の学習を深めて、「同じ部分で同じ音」を探す問題や「同じ部分と意味」を学んで部首理解に繋げている。また、「熟語の成り立ち」では、漢字二字の熟語が４つのパターン（相似・対・上の漢字が下の字を修飾する、下の字が上の字の目的語にあたる）でできていることを学び、三字熟語、四字熟語の成り立ちにも触れ、「漢字を正しく使えるように」で、まとめている。

この複雑な学習の素地が第１学年及び第２学年で作られているのである。

６．ま　と　め

５では、「ことば」教材のテーマ毎に、〔第１学年及び第２学年〕を中心にして、その配列の特徴と、教材として用いるときのよい点・改善点を見てきた。学習指導要領に基づいて作成される教科書であるが、それぞれの差異はあることも確認できた。

個々の教材の関連は学習指導書に記載があるものの、教員の立場からは、６年間にどのような知識をどの学年で学んでいるかを把握し、時には、前段階に戻って復習ができるような準備が必要なことを学生にも伝えておきたい。

そのためには、「ことば」教材の流れを掴むとともに、各教科書会社の違いも知る必要があると思われる。実際に教壇に立った場合、教員は教科書の選択はできないが、教授法を学ぶ段階では、よりよい教材を児童たちに提供するために、比較、検討し、一本を他本で補うような授業のあり方があってもよいのではないかと思われる。

また、〈注８〉でも触れたが、新・学習指導要領では、各教科＞国語＞各学年の目標及び内容＞〔第１学年及び第２学年〕＞内容に、〔知識及び技能〕として、現行の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕内容が掲げられる。「何ができるようになるか」という観点は、「言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する」と位置づけられ、文字・表記・文法に関する事項は国語の基盤の知識であるといえる。

「１.はじめに」で触れた学生自身の国語力も、「ことば」教材を教えることで整理され、国語基礎の重要性への自覚が高まることを願うものである。

７． こくご二下　赤とんぼの授業

最後に、国語科教育法の時間に行った模擬授業の実態を報告しておきたい。光村図書館書の２年生の教科書をテキストにし、「ことば」教材から模擬授業のテーマを選択させた。

受講登録学生の総数は、91 名で、そのうち、15 名がリタイアし、模擬授業まで行ったのは 76 名である。91 名は３クラスに分かれたが、時間割の都合で均等にクラス分けを行うことができなかったので、各クラスはそれぞれ 11（10）名、22（19）名、58（47）名であった。（　）内が模擬授業体験者数であるが、模擬授業後に放棄した者が２名いたので、単位取得者数は 74 名である。

この科目は１回生配当で、本学の３年制を選択している学生は２年目に受講している。３つの資格・免許の取得を目指すものが多い２年目での受講者に放棄者は少なく、１回生で保育士・幼稚園二種免許と併せて、小学校二種免許取得のために受講した学生のうちで、指導案の作成授業の過程で放棄した者が多く出てしまった。

模擬授業は、基本的には１人で 20 分の授業を行うこととしたが、58 名のクラスだけは２、３名のグループ授業としたので、それぞれの教材に、10 組前後の担当希望が出て、（表４）のような結果となった。

このうちで、「ことばを楽しもう」の単元だけが希望が少なかった。これは、回文「わるいにわとりいるわ」などを、「上から読んだり、下から読んだりしましょう」というもので、発展性に欠ける教材と思われたが、担当者は自らさまざまな回文を考えて、創意工夫した授業が見られたのである。

本学学生のなかには、教材準備よりも、現場での適応力に長じている者も多く、それらの学生の強みが発揮できる教材であった。

（表４）

人数	単元	組数	学籍番号	人数	単元	組数	学籍番号
1	主語と述語	1	2165B1006	35	かたかなで書くことば	5	2175B1005
2		2	2165B1020	36			2175B1011
3		3	2165B1033	37		6	2175B1059
4			2165B1045	38		7	2175B1089
5			2165B1046	39		8	2175B1097
6		4	2175B1006	40		9	2175B1125
7			2175B1021	41	にたいみのことば はんたいのいみのことば	1	2165B1001
8		5	2175B1077	42		2	2165B1003
9		6	2175B1082	43		3	2165B1008
10		7	2175B1092	44		4	2175B1045
11		8	2175B1104	45			2175B1054
12	かん字の読み方	1	2165B1013	46			2175B1060
13			2165B1040	47		5	2175B1070
14			2165B1047	48		6	2175B1081
15		2	2165B1014	49		7	2175B1087
16		3	2165B1025	50		8	2175B1099
17		4	2175B1001	51		9	2175B1130
18			2175B1022	52	なかまのことばとかん字	1	2165B1007
19			2175B1025	53		2	2165B1010
20		5	2175B1008	54		3	2165B1026
21			2175B1020	55		4	2165B1035
22		7	2175B1085	56		5	2175B1007
23		9	2175B1136	57			2175B1012
24	かたかなで書くことば	1	2165B1037	58			2175B1029
25			2165B1038	59		6	2175B1036
26		2	2165B1028	60			2175B1063
27			2165B1050	61			2175B1064
28			2165B1051	62		7	2175B1038
29		3	2175B1003	63		8	2175B1079
30			2175B1023	64		9	2175B1090
31			2175B1030	65		10	2175B1101
32		4	2175B1010	66		11	2175B1108
33			2175B1024	67		12	2175B1143
34			2175B1033	次頁に続く			

人数	単元	組数	学籍番号
68	ことばを楽しもう	1	2165B1023
69		2	2175B1037
70			2175B1061
71		3	2175B1016
72			2175B1044
73			2175B1046
74		4	2175B1050
75			2175B1056
76			2175B1062

８． 終わりに

短くて、全体計画が立てやすいと考えて選択した「ことば」教材であったが、本学の場合、シンプルにしたにも拘わらず、指導案作成の段階で挫折者が出たのは、今後の課題である。

しかし、採用試験で模擬授業を行った卒業生の話から、「ことば」教材が、試験時の教材となることを知った。やはり、短い時間で全体計画が立てやすく、ある程度、知識を教える部分と、自由に応用させることができる部分を作れる「ことば」教材は、学生の模擬授業の入り口としても扱いやすいものと結論できる。今後は、学年を進めて検討を続けたい。

上記に本学での課題を書いたが、予想されたことでもあるので、指導案作成の煩雑さを避けるために、模擬授業前には、全体計画は書かず、本時の展開だけを提出させていた。そして、それを補うために、全員の模擬授業後に、単元の全体計画を書く時間を設けた。クラスの人数により、模擬授業後の残り時間に差があったので、残り時間数に応じて、国語の特質に関する事項の教材のうちで、対象としていなかった文章教材「ようすをあらわすことば」もしくは、長文の物語「お手紙」を使用した。本時の計画に従って模擬授業を行い、時間内に指導者や学生同士でも反省点を指摘しあっているので、そこで真剣に取り組んでいた学生は、短い時間の中で、全体計画の必要性も理解し、書き上げていた。

指導案作成の順序や方法については、今後も検討してゆきたい。

－注－

＊教科書の比較の際に、低学年の教材であるため平仮名が多く、文節区切りに空白を用いていて、読みにくい場合もあったが、引用をした場合は原文表記を尊重した。

〈注１〉新『小学校学習指導要領』第２章各教科、第１節「国語」の目標（平成 29 年３月）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_4_2.pdf

〈注２〉「平成 27 年度使用　神戸市立小学校教科用図書一覧表」による。
http://www.city.kobe.lg.jp/child/school/textbook/kyoukasyo27b_syou.html
神戸市ホームページ・教科書・教材（最終更新日 2018 年１月 30 日）より。
http://www.city.kobe.lg.jp/child/school/textbook/index.html

〈注３〉中央教育研究所株式会社版による。
http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/pdf/corporation/support/h29/h29_28.pdf
各教材会社は出版社の協力により全国教科書採択一覧を作成し公表している。

〈注４〉
http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/pdf/corporation/support/h30/h30_28.pdf

〈注５〉
http://www.e-prest.co.jp/order/saitakuhyo.html
株式会社プレストによる「(小学校平成 27 年度～平成 31 年度) 平成 30 年度地区別採択一覧表」。公立学校の表であるため、兵庫県も（表１）に示した国立小学校等は含まず 17 地区となる。

〈注６〉『小学校学習指導要領解説　国語編（平成 20 年）－平成 27 年 3 月付録追加－』（文部科学省・東洋館出版社）による。

〈注７〉拙稿「『国語科教育法』における取り組みと課題」（『夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』第 10 号【2016】・2017 年３月）。

〈注８〉この内容は、新・学習指導要領では、第２　各学年の目標及び内容の２内容〔知識及び技能〕の（１）アからクに（１）のイ（ｱ）から（ｷ）およびウの（ｱ）、（ｲ）に継承されている。

〈注９〉丹羽正之氏「漢字学習のための漢字カードゲーム作り」（『夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』第８号【2015】・2016 年３月）、「漢字の部品カードを使った学習用ゲーム」（『夙川学院短期大学 教育実践研究紀要』第 10 号【2016】・2017 年３月）。

ピアスーパーバイザーからのコメント

本稿は、国語科教育法において教科書の分析を行い、児童・教員にとってのよりよい教材を探求したものである。教科書の分析においては兵庫県・全国最大のシェアのものを取り上げ、内容における教材間の関連・題材配列の特徴・学年を通した系統性を明らかにしている。また教科書間の差異や新学習指導要領における内容の変更についても言及している。丁寧な調査・分析に学びたい。また教育する側（小学校現場では教員にもなる）にとって「発展性に欠ける教材」と思われたものが「（創意工夫や臨機応変な対応を得意とする－齋藤注）学生が強みを発揮できる教材」へと転化した例も紹介され、「よりよい教材・扱いやすい教材」を多角的に設定していく方向性も示唆されている。「主体的・対話的な深い学び」が推奨される中、教育する側による教材選択の要点を考えるものとして多くの教員に参照されたい。また続稿でのさらなる調査・分析も期待する。

（担当：齋藤尚志）